

有害プランクトン情報

(令和4年度 - No. 2)

千葉県水産総合研究センター

東京湾漁業研究所・生産技術研究室

千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によって、魚類のへい死や二枚貝の毒化を起こすことがあるため、毎月、有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○ 調査日	沖合	5月 第1回	内湾 (8地点)	5/11	内房 (7地点)	5/11
		5月 第2回	内湾 (8地点)	5/17	内房 (7地点)	5/16
		5月 第2回	内湾 (8地点)	5/31		
	貝類漁場内	九十九里 5/12, 5/18, 5/25 (生産技術研究室が担当)				
		千葉北部	5/17, 5/24	木更津北部	5/22, 5/26	
		木更津南部	5/18, 5/26	富津	5/24	

東京湾(内湾)**【有害プランクトンの出現状況】**

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
- ※ シャットネラ属は 1 細胞/mL, シュードシャットネラ属は 100 細胞/mL, ヘテロシグマ属は 1,000 細胞/mL, カレニア属は 100 細胞/mL 以上で注意報を発出します。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH8.5 以上, 酸素飽和度 150%以上) はみられませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - 沖合, 貝類漁場とも確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - 沖合でディノフィシス アキュミナータがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
 - ・ 5/11 内湾全域 (沖合) 最高密度は盤洲南部の 1.3 細胞/mL
 - ・ 5/17 羽田沖及び船橋沖～盤洲南部 (沖合) 最高密度は船橋沖の 1.0 細胞/mL
 - ・ 5/31 アクアライン北部～盤洲北部 (沖合) 最高密度は盤洲北部の 0.4 細胞/mL
 - ・ 5/17 千葉北部 (貝類漁場) 密度は 0.6 細胞/mL
 - ・ 5/22 木更津北部 (貝類漁場) 密度は 0.5 細胞/mL
 - ・ 5/24 千葉北部 (貝類漁場) 密度は 0.05 細胞/mL
 - 沖合でディノフィシス ロツンダータがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
 - ・ 5/17 船橋沖 (沖合) 密度は 0.2 細胞/mL
 - ・ 5/17 千葉北部 (貝類漁場) 密度は 0.1 細胞/mL
 - 沖合でディノフィシス インファンディブラがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
 - ・ 5/11 アクアライン北部及び千葉沖 (沖合) 密度はそれぞれ 0.1 細胞/mL, 0.2 細胞/mL
 - ・ 5/17 千葉北部 (貝類漁場) 密度は 0.1 細胞/mL
 - 貝類漁場では、いずれのプランクトンも確認されませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

東京湾(内房)**【有害プランクトンの出現状況】**

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
- ※ シャットネラ属は 1 細胞/mL, シュードシャットネラ属は 100 細胞/mL, ヘテロシグマ属は 1,000 細胞/mL, カレニア属は 100 細胞/mL 以上で注意報を発出します。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH8.5 以上, 酸素飽和度 150%以上) はみられませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン

- 沖合でディノフィシス アキュミナータがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
 - ・5/11 内房全域（沖合）最高密度は保田沖の0.4 細胞/mL
- 沖合でディノフィシス インファンディブラがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
 - ・5/11 大貫沖（沖合）密度は0.1 細胞/mL
 - ・5/17 千葉北部（貝類漁場）密度は0.2 細胞/mL
- 貝類漁場では、いずれのプランクトンも確認されず、貝毒の被害情報もありません。
 （貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載）

九十九里海域(旭～宮沖貝類漁場)

【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
 ※ 赤潮（透明度 1.5 m 以下, pH8.5 以上, 酸素飽和度 150%以上）は確認されませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

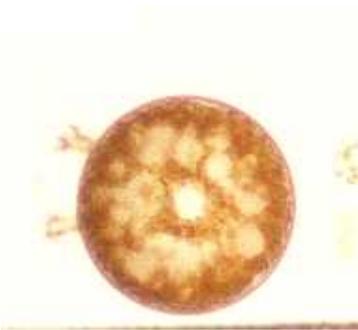
- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - 貝類漁場でディノフィシス アキュミナータがみられました。低密度ですが、注視が必要です。
 - ・5/12 九十九里（貝類漁場）密度は0.25 細胞/mL
 - ・5/18 九十九里（貝類漁場）密度は0.05 細胞/mL
 - ・5/25 九十九里（貝類漁場）密度は0.15 細胞/mL
 - 貝毒の被害情報はありませんでした。
 （貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載）

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

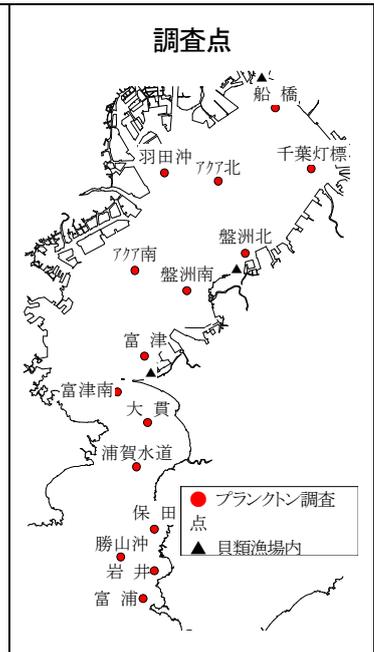
5/11	内湾・内房	珪藻ユーカンピア属, コシノディスクス属など
5/16-17	内湾・内房	珪藻ダクチリオソレン属, コシノディスクス属など
5/31	内湾・内房	珪藻ダクチリオソレン属, タラシオネマ属など



ユーカンピア属
(5/11 船橋沖)



コシノディスクス属
(5/11 船橋沖)



連絡先：千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所
 〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp